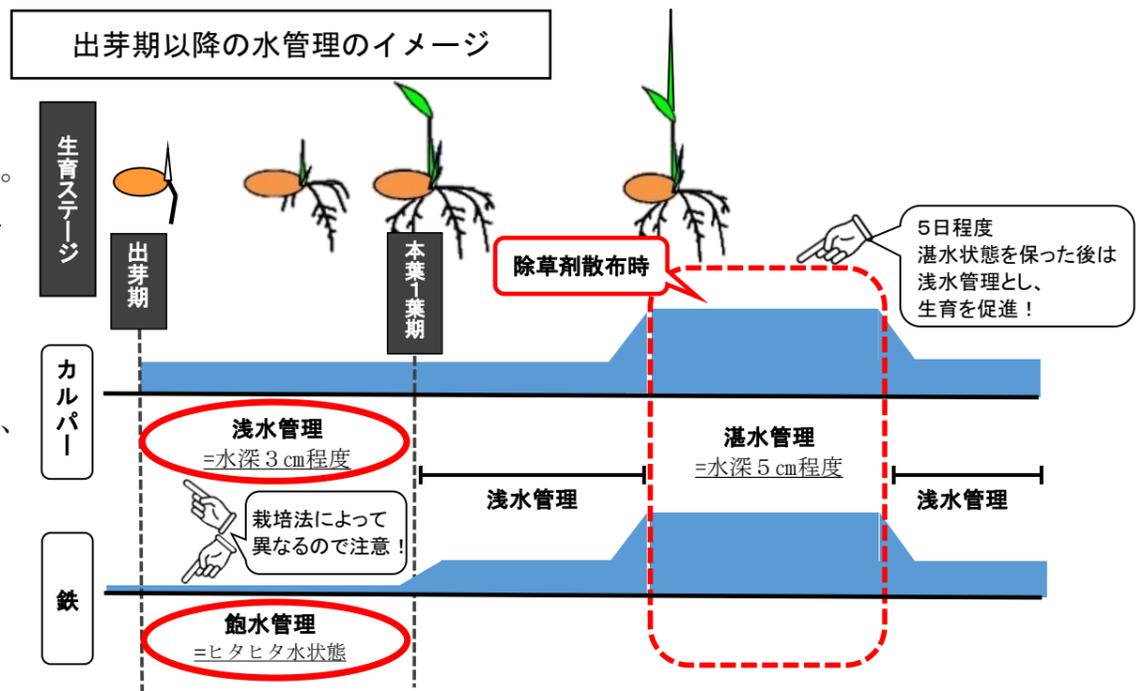


## ○的確な水管理と適期の栽培管理で、初期生育を確保しましょう。

### 1 出芽期以降の水管理

- ・カルパーコーティング圃場では、出芽期以降水深3cm程度の浅水管理を行いましょう。
- ・鉄コーティング圃場では、出芽期は飽水管理、本葉1葉期以降は浅水管理を行いましょう。
- ・浅水管理時の入水は、朝または夕方に短時間で行い、日中は止水としましょう。
- ・湛水状態で散布する除草剤を使用する場合、散布後5日間は水深5cm程度を保ち、その後は浅水管理としてください。
- ・藻や表層はく離が発生した場合は、水の入れ替えを行いましょう。



### 2 初期害虫の防除

・イネミズゾウムシ等の初期害虫の発生状況等に応じ、防除を実施しましょう。  
 <防除の目安と防除薬剤(注:5月下旬~6月上旬に以下の頭数以上が見られたら防除を実施)>

対象害虫	防除の目安	薬剤名	処理量	使用上の注意点
イネミズゾウムシ	成虫数 3.0頭/10株	シクロパック 粒剤	60g×10個 /10a	・湛水状態(3~5cm)の水田へ投げ込み、散布後は少なくとも3~4日間は湛水状態を保ち、落水、かけ流しはしない。
イネドロオウムシ	成虫数 0.5頭/10株	トレボン 粉剤DL	3kg/10a	・前年多発した圃場などでは発生状況を必ず確認する。 ・イネドロオウムシによる食害が見られたら、防除の目安を参考に防除を行う。

### 3 溝掘りの実施

- ・入水と落水をスムーズにし、中干しの効果を高めるため、**6月上旬までに溝掘りを実施しましょう。**
- ・作溝は10~15条に1本の間隔を目安に行いましょう。また、播種機でできた溝の手直しや連結を確実に実施しましょう。



溝掘り実施により、  
中干しの効果が高まり、  
根が健全化します!

### 4 除草剤散布(雑草が残った場合)

- ・一発処理剤の散布後も雑草が残っている場合は、使用時期を確認し、雑草の種類や発生状況に応じて、除草剤を散布しましょう。

発生草種	除草剤名	使用時期	10a当たり散布量	使用上の注意点
ノビエ	クリンチャー 1キロ粒剤	播種後10日以降 ノビエ3葉期まで (ただし、収穫30日前まで)	1.0kg	・散布時には5cm程度の深水とし、散布後5日間は湛水状態を保つ。 ・散布後に多量の降雨が予想される場合は使用を避ける。
		播種後25日以降 ノビエ4葉期まで (ただし、収穫30日前まで)	1.5kg	
	クリンチャーEW	播種後10日以降 ノビエ5葉期まで (ただし、収穫30日前まで)	100ml (希釈水量25~100ℓ)	・雑草の茎葉に確実に付着するよう、散布する。 ・晴天日を選んで散布する。 ・展着剤を加用する。
ノビエ マツパイ ホタルイ	クリンチャーバス ME液剤	播種後10日以降 ノビエ5葉期まで (ただし、収穫50日前まで)	1,000ml (希釈水量70~100ℓ)	・落水状態で散布し、散布後3~4日間は入水、落水をしない。 ・晴天日を選んで散布する。 ・展着剤は加用しない。
ノビエ マツパイ ホタルイ クサネム	サンパンチ 1キロ粒剤	イネ3葉期~ ノビエ3葉期まで (ただし、収穫60日前まで)	1.0kg	・散布後5日間は湛水状態を保ち、田面を露出させたり、水を切らさない。 ・散布後多量の降雨が予想される場合、使用を避ける。 ・砂質土壌や漏水の激しい水田(減水深2cm/日以上)では薬害が発生するおそれがあるので使用を避ける。
マツパイ、ホタルイ ウリカ ミスガヤツリ 他	バサグラン液剤	播種後35~50日 (ただし、収穫50日前まで)	500~700ml (希釈水量70~100ℓ)	・落水状態で散布し、散布後3~4日間は入水、落水をしない。 ・晴天日を選んで散布する。

※鉄コーティング直播圃場で、  
根が露出し、株がフラフラした状態での後期剤使用は控えましょう → まず田干しして、根の土中貫入を促しましょう。